

伊豆地域の「背骨」となる伊豆縦貫自動車道

■諸元

- ・事業主体：国土交通省 及び 静岡県
- ・区間：沼津市～下田市
- ・延長：約60km
- ・設計速度：80km/h
- ・4車線(一部完成2車線)

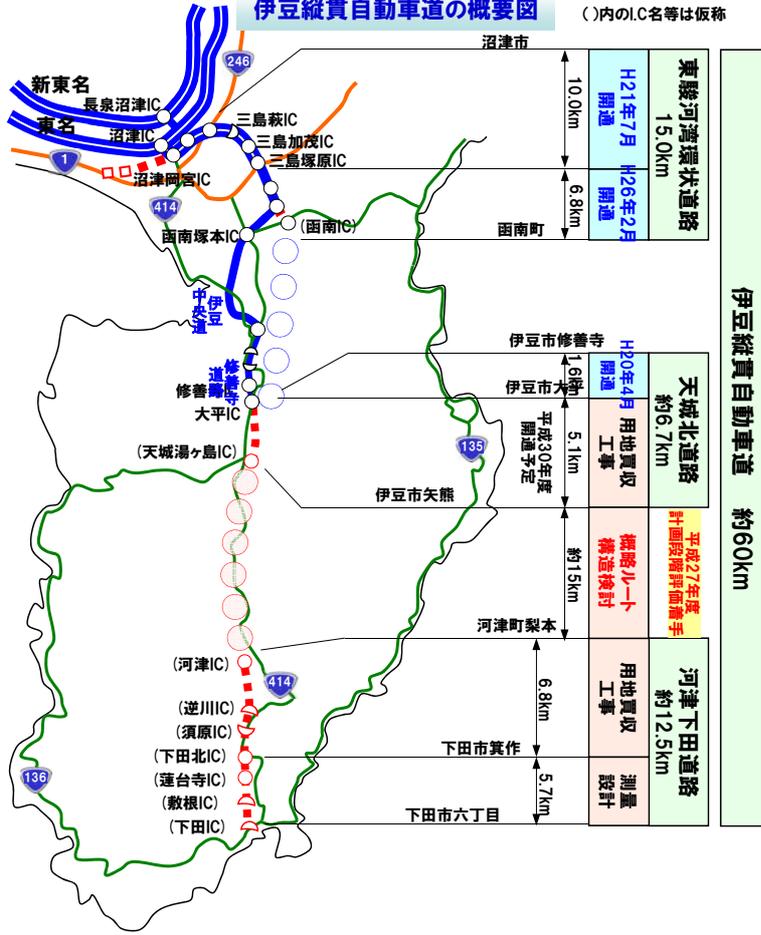
■伊豆縦貫自動車道の役割

- ・観光を中心とした産業の活性化
- ・救急医療施設への患者の搬送路
- ・災害、事故発生時の迂回路、緊急輸送路



伊豆縦貫自動車道の概要図

()内のIC名等は仮称



伊豆縦貫自動車道 全線開通時

沼津～下田
【整備前】
2時間10分
↓
【整備後】
60分

東駿河湾環状道路 全線開通時(H25)

沼津～修善寺
【整備前】
56分
↓
【整備後】
30分



伊豆地域の道路の課題 (①他の地域に比べて弱い道路網)

○山間部を中心として未改良区間が多数存在し、災害時の代替経路としても機能不足が懸念される。

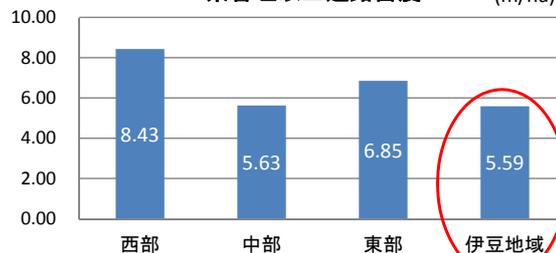
(面積当たりの道路密度は、**県内の他地域に比べて伊豆地域が最も低い。**)

■主な狭隘・未改良区間

- ① 国道414号(河津町峰～下田市須原)
- ② 国道136号(土肥峠)
- ③ 国道136号(松崎町雲見)
- ④ 沼津土肥線(沼津市西浦)
- ⑤ 伊東西伊豆線(西伊豆町大沢里)
- ⑥ 中大見八幡野線(伊豆市冷川)



県管理以上道路密度 (m/ha)



※面積あたりの県管理以上の道路延長を算出

伊豆地域の道路の課題(②災害に対して脆弱な道路ネットワーク)

- 半島全体が急峻な地形を有し、異常気象により通行規制を受けやすく、**道路網が災害に対して脆弱**。
(国・県道の全延長の約3割が事前通行規制区間であり、沿岸部では津波浸水被害が想定される区間も多数存在)
- 異常気象や地震等による土砂災害により**通行止めが多発すると、伊豆半島各地で孤立集落が発生**する。

■伊豆地域の通行規制状況



■台風、地震等による被災状況(例)

【国道136号(伊豆市土肥)】
・国道136号(第1次緊急輸送路)が、観光シーズンの7/23~8/11の20日間全面通行止めに



平成19年 国道136号地すべり災害



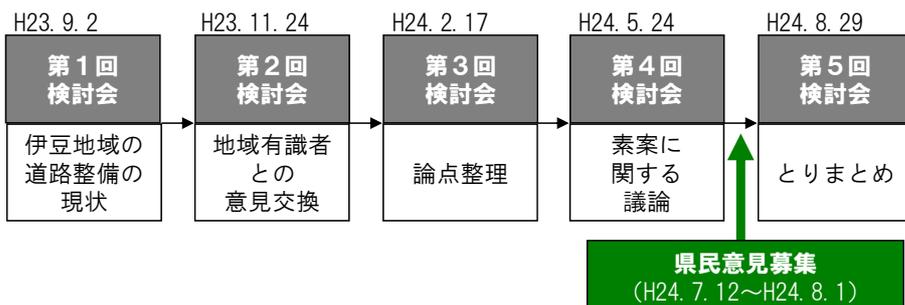
⇒ 背骨となる「伊豆縦貫自動車道」と肋骨となるアクセス道路を含め、**伊豆半島全体の道路ネットワークとしてとらえる必要性**

伊豆地域の道路整備のあり方の検討

○平成23年9月、伊豆地域の道路整備手法など、伊豆地域の道路整備のあり方を検討する検討会を設置

- 委員長 兵藤 哲朗 (東京海洋大学教授)
- 委員 長田 哲平 (日本大学助教 現：宇都宮大学大学院助教)
- 神尾 文彦 (野村総合研究所部長)
- 岸 昭雄 (静岡県立大学講師)
- 谷口 綾子 (筑波大学大学院講師 現：筑波大学大学院准教授)
- 福田 大輔 (東京工業大学大学院准教授)
- 二村真理子 (東京女子大学准教授)

(委員以下 五十音順)



検討会の様子



地域有識者との意見交換の様子

⇒ 平成24年8月 「伊豆地域の道路整備のあり方」 を策定

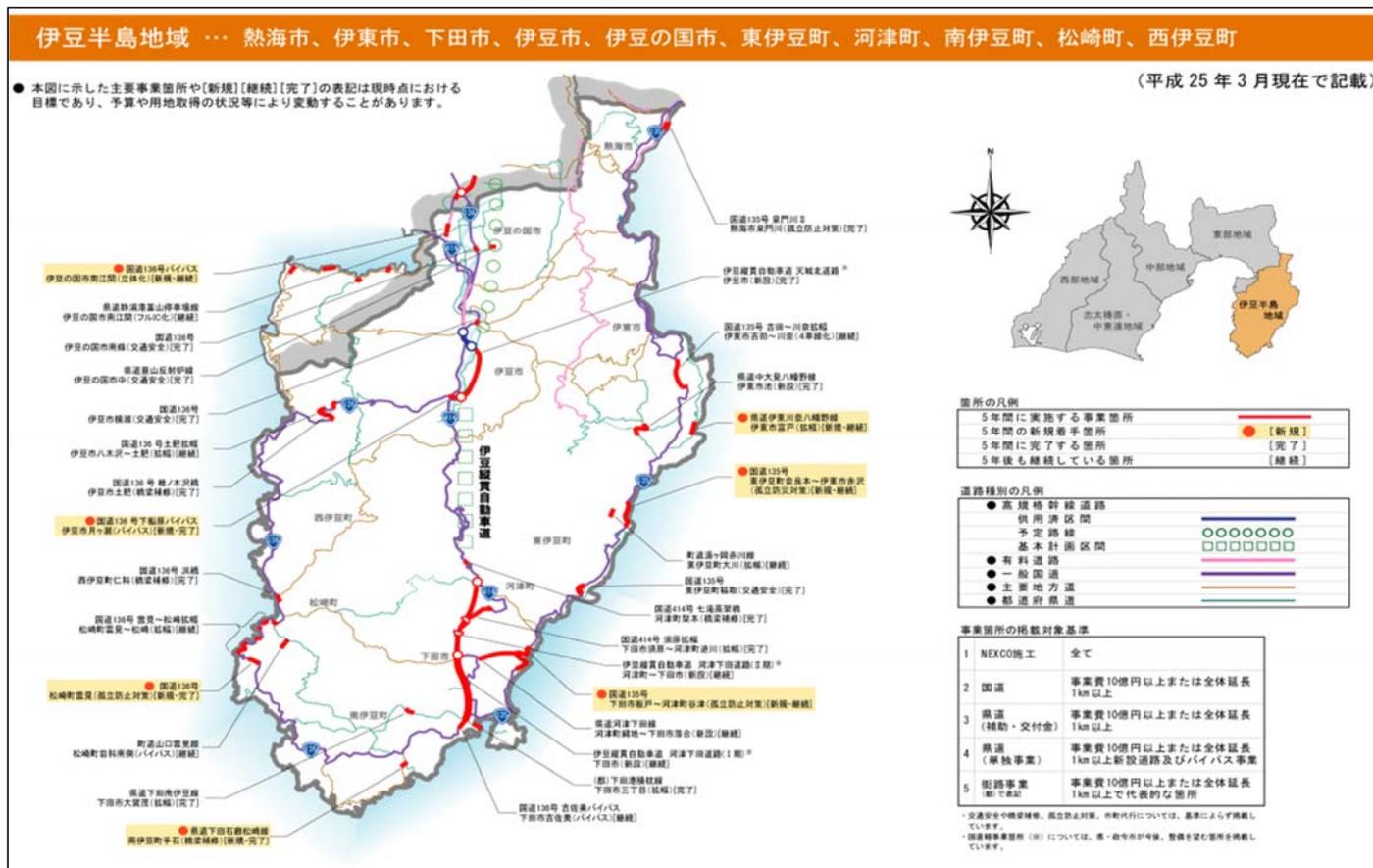
伊豆地域の情勢の変化

	伊豆縦貫自動車道等の道路、伊豆地域の道路の動き	その他
H24. 8	「伊豆地域の道路整備のあり方」策定（県）	
H25. 6		富士山世界遺産登録
H25. 7	静岡県道路整備計画である「ふじのくにの“みちづくり”」を策定（県）	
H26. 2	<u>東駿河湾環状道路（三島塚原IC～函南塚本IC）開通（国）</u>	
H26. 4	伊豆中央道・修善寺道路における合併採算制の導入（あわせて5割引回数券の発売開始）（県、県道路公社） 天城北道路（大平IC～湯ヶ島IC（仮称））が平成30年度に開通見通し（国）	
H26. 11	河津下田道路（I期）の都市計画決定（県、下田市）	
H27. 7		韮山反射炉世界文化遺産登録
H27. 11	<u>伊豆縦貫自動車道（天城峠を越える区間：天城湯ヶ島～河津）が計画段階評価に着手（国）</u>	
H27. 12		日本サイクルスポーツセンターが <u>東京オリンピック自転車競技の会場に正式決定</u>
H28. 3	「東京五輪会場アクセス道路整備事業費」のH28予算化（県）	

⇒ **大きな情勢の変化を踏まえ、伊豆地域の道路整備のあり方をリバイスを実施する**

伊豆地域での取組① ふじのくにの“みちづくり”（平成25年7月策定）

○「道路重点計画」中に、5ヶ年（平成25年～29年）で取り組む主な事業箇所を整備目標を公表。



伊豆地域での取組② 東京五輪会場アクセス道路整備事業

○東京五輪会場に正式決定となった「**日本サイクルスポーツセンター**」への**アクセス道路**として要対策箇所の整備を集中的に実施することにより、選手、大会関係者及び観客等の安全、快適な移動確保を図る。



- 【概要】**
3路線5箇所の整備
- 【事業期間】**
H28～H31(4カ年)
- 【事業箇所】**
- ①(主)熱海大仁線 交差点改良
 - ②(主)熱海大仁線 道路拡幅
 - ③(国)136号バイパス 道路改築
 - ④(主)伊東大仁線 ゆずりあい車線
 - ⑤(主)伊東大仁線 ゆずりあい車線

【江間交差点】
静岡県道路公社が行う有料道路事業とあわせ、五輪開催までに、交差点立体化を予定



⇒ **平成32年夏に行われる東京五輪自転車競技会場へのアクセス道路整備を実施**

伊豆地域での取組③ 「肋骨」となるアクセス道路の整備

○背骨となる伊豆縦貫自動車道の整備とあわせ、県では、肋骨となるアクセス道路整備を推進

《主要な事業(例)》

国道136号 土肥拡幅
(伊豆市八木沢～土肥)

- すれ違い困難箇所の解消
- 天城北道路の開通に向け供用開始を目標とし実施
(平成29年度開通(目標))

●(土肥峠工区)

●(土肥峠工区)



国道136号 下船原バイパス
(伊豆市下船原～月ヶ瀬)

- (仮称)天城湯ヶ島ICへのアクセス道路の整備
- 出口交差点の渋滞解消
- 天城北道路の開通にあわせ供用開始を目標とし実施
(平成30年度開通(目標))

●(仮称)天城湯ヶ島IC

(主) 下田松崎線 (松崎町小杉原)

(一) 中大見八幡野線 (伊東市池)

伊豆地域での取組④ 景観形成に向けた取組

○社会資本整備における「ふじのくに色彩・デザイン指針」の運用

- **公共事業の景観への配慮を徹底**し、公共空間の良好な景観形成を推進するため、「ふじのくに色彩・デザイン指針(社会資本整備)」の運用を開始(平成23年度から実施、平成25年度から全庁運用開始)
- 平成24年度から、景観工学・色彩・地域計画の有識者5名からなる**静岡県景観懇話会を設置**し、公共事業の景観配慮に関する助言をいただいている。

(例) 既設橋梁の色彩検討(石堂橋)
特徴的な構造を引き立たせ、橋の美しさを見せるダークグリーン(5G2/2)を使用



○伊豆地域の良好な景観の形成と保全(伊豆の景観魅力アップ事業)

- 平成27年度に、市町や観光関係者と協働で、景観上重要なポイントの選定等の事前調査を実施し、**景観協議会を設立**し、推進体制を構築。
- 平成28年度は、基本方針と個別対応方針を策定し、伊豆地域の広域的な景観形成の指針となる**景観形成行動計画を策定予定**。



11

今後に向けて

○当地域の持続的な発展に向け、国、県、市町(美しい伊豆創造センター)が連携。



伊豆縦貫自動車道を背骨として、肋骨となる国県道、幹線市町道を含む地域全体の道路網のあるべき姿と短期、中長期を見据えた実施計画を検討する。

12